

(2) 介護老人保健施設に勤務する看護職に対する教育プログラムの開発

研究の目的

介護老人保健施設(老健)に勤務する看護職者への教育プログラムを開発するための基礎的データとして、老健で遭遇しやすい利用者の急変事例とそれに対応するときに看護師が「困難に感じていること」を明らかにする。

調査内容

介護老人保健施設に勤務する看護職者6名を対象に、独自に作成したインタビューガイドを用いて、30分程度の半構造化面接を実施した。

- 1)対象者の属性・所持している資格・老健での経験年数
- 2)これまでに経験した急変事例
- 3)急変事例が発生した時に困難に感じること、困ったこと

結果

- 1) 遭遇しやすい急変事例には、換気不全、脳卒中、発熱があった。
- 2) 夜間・休日は看護職員が救急搬送をするかの判断をしていた。
- 3) 病院の受診に際し、看護職員は病院の経営面をも考慮していた。
- 4) 看護職員は、介護職員との連携をはかり、急変への対応を行っていた。

今後の展望

老健で遭遇しやすい急変事例について、シナリオを作成し、高度再現度シミュレータを用いて、教育プログラムを開発する。